

第6期高津区区民会議 第5回全体会議 資料集

- | | | |
|--------|--------------------|-------|
| ●資料1・2 | 各専門部会の活動報告 | P. 1 |
| ●資料3 | たかつ区区民会議ニュース第4号(案) | P. 17 |
| ●資料4 | 第6期高津区区民会議スケジュール | P. 19 |
| ●参考資料 | 障害者に対する差別の解消と理解の促進 | 別紙 |
| ●参考資料 | 避難所をもっとよく知ろう | 別紙 |
| ●参考資料 | 備える。かわさき | 別紙 |

平成29年9月27日(水) 午後6時～

高津区役所 第2・3会議室

生き活きまちづくり部会 活動報告

1 調査審議テーマ

- ①子どもの地域参加：平成29年7月に「7つの視点」を報告書として取りまとめ、
区民会議ニュースの配架先（町内会の回覧を除く）の他に、
高津区PTA協議会、高津区子ども会連合会などに配布済み
- ②障害者に対する差別解消と理解促進：下記参照
- ③高齢者の生きがいつくり：平成29年10月から調査審議開始予定

2 これまでの検討経過

日程	会議名	実施内容
6月13日	第4回全体会議	各専門部会の活動報告など
29日	第6回生き活きまちづくり部会	・アンケート結果の提示 ・障害者に対する差別解消と理解促進の進め方について など
7月18日	調査活動①	障害者施設の見学・ヒアリング
21日	調査活動②	障害者施設の見学・ヒアリング
9月12日	第7回生き活きまちづくり部会	・「オープンエアメーカー」養成講習の受講 ・障害者に対する差別解消と理解促進に関する報告書について など

(1) 第6回生き活きまちづくり部会

開催日時 平成29年6月29日（木） 午後6時00分～7時40分
場 所 高津区役所5階第1会議室
参加者 区民会議委員12名

障害者に対する差別解消と理解促進の進め方について

高津区内の障害者施設に依頼したアンケートの回答（資料集P4参照）を基に、障害種別ごとにヒアリングを実施し、報告書を作成することを確認した。

(2) 障害者施設の見学・ヒアリング

実施日時 平成29年7月18日（火） 午後1時30分～2時40分
施設名 川崎市北部身体障害者福祉会館作業室・川崎市わーくす高津
参加者 区民会議委員7名

実施日時 平成29年7月21日（金） 午後2時00分～3時00分
施設名 ピアジョブサポート溝の口
参加者 区民会議委員4名

ヒアリングでは、次のようなご意見をいただいた。

障害者差別解消法の浸透状況について	<ul style="list-style-type: none">・車椅子の人たちと外出したときに、すぐに声が掛かり案内してもらえた・地域の方々は、温かい目で見えてくれる方が多く、「利用者さんがうずくまっているよ」など、連絡をいただくこともある・住宅街で開設する際に、周囲の住民に声掛けするが、心配する声も聞かれた・法律の有無に関わらず、気持ちで接してくれる人はたくさんいるので、法律があるからではないよねという会話ができることが望ましい
不当な差別的取扱いの禁止について	<ul style="list-style-type: none">・一人暮らしを希望する障害者がいても、部屋を貸してもらえないことや、内見すら受けない大家さんがいる
合理的配慮の提供について	<ul style="list-style-type: none">・あまり気を遣われ過ぎるのも、障害者というレッテルを貼られているようで嫌だという人もいるので、配慮を求め過ぎるのもどうかと思うこともある・最近は配慮がある会社が多くなった。就職面接時に、支援者の同席を許可してもらえる会社が増えた
日常の活動について	<ul style="list-style-type: none">・地域のお祭りなどに興味はあるが、自分が障害を持っていることを知られたくないので、一歩が踏み出せない人もいる・会館の前で実施しているバザーなどをきっかけに、交流の機会が生まれるとよい

(3) 第7回生き活きまちづくり部会

開催日時 平成29年9月12日(火) 午後6時00分～8時10分

場 所 高津区役所5階第3会議室

参加者 区民会議委員12名

ア 「オープンエアメーカー」養成講習について

高津総合型スポーツクラブSELFの戸沼智貴氏を講師に招き、川崎市が進めている「オープンエアメーカー」について講習を受けた。

イ 障害者に対する差別解消と理解促進に関するまとめ方について

調査報告書(案)を基に、内容・取扱いなどについて意見交換を実施した。

3 テーマ②「障害者に対する差別解消と理解促進」の審議状況

○9月12日の第7回部会における審議を踏まえ、以下にて対応。

- (1) これまでの活動経過および提案を記した活動記録として「調査報告書」を完成。アンケート調査に協力いただいた障害者施設に結果報告を兼ねて配付。「区民会議ニュース」に掲載。
- (2) 同様にして、区民向けの分かりやすい広報パンフレットの作成および町内会・自治会等を通じた区民に対する配付検討。平成29年10月以降の部会において審議する予定。

4 今後のスケジュール

○10月以降の部会において、以下の2つのテーマを審議。

- (1) テーマ②「障害者に対する差別解消と理解促進」について、上記の通り広報パンフレットの作成検討。
- (2) テーマ③「高齢者の生きがいづくり」について、調査審議開始。まずは問題意識と活動の方向性を審議。

ご参考 アンケート調査に対する回答概要：

(○：事業所職員、☆：障害者本人)

1 「障害者差別解消法」について

(1) 「障害者差別解消法」の浸透状況について

○「住民は知らない。理解していない。」「浸透しているとはいえない。」「啓発活動も行き届いていない」という意見が多かった。

☆周囲にあまり理解されていないという意見が多いが、前向きの評価もある。

(2) 同法が定める「不当な差別的取扱いの禁止」について

○勤務中に差別を受けたと感じている人は少ない。

○街中の施設やサービスを利用する際に、差別を受けた経験のある人はいる。

☆差別を受けた経験のあり・なしの両論がある。車椅子利用者が、道路の段差・傾斜・狭窄に対して不自由を感じている。

(3) 同法が定める「合理的配慮の提供」について

○合理的配慮の提供を受けたことがあるという回答が結構多い。障害者の方が意思表示をすれば、周りの人は支援をするということか。

○一部の方は、合理的配慮の理解がまだ少ないと感じている

☆周りの人から親切にされた経験のある人が多い。

2 日常の活動について

(1) 地域社会の催しや行事について

○地域のイベント（とくにお祭り）に参加したいと考えている人は多い。

○障害者と障害者でない者との交流の場を望む意見もある。

○一部にはイベントの参加は難しいという意見もある。障害の内容によっても、アウトドア活動への参加ニーズは異なるのかもしれない。

☆イベントに積極的に参加したいという意見が多いが、消極的な意見もある。

(2) 「ふくシティたかつ」について

○広報・周知に力を入れてほしいという意見がある。

○区役所への来場者の関心が小さい、もう少し関心をもってほしいとの感想もある。

○区役所内だけでなく、駅構内等の目立つ場所で開催してほしいという意見もある。

☆立ち寄る人が少ないという声が多い。学校での開催を提案する人もいる。

防災まちづくり部会 活動報告

1 調査審議テーマ

- ①避難所を知ろう
- ②共助による防災まちづくり

2 これまでの検討経過

日 程	会 議 名	実 施 内 容
6月13日	第4回全体会議	各専門部会の活動報告など
7月20日	第5回防災まちづくり部会	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所を知ろうのとりまとめ ・共助に関する行政の取組紹介 ・共助の具体的な取組内容についての意見交換 など
8月29日	第6回防災まちづくり部会	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所を知ろうのとりまとめ ・参考事例を基に、共助による防災まちづくりについての意見交換 など

(1) 第5回防災まちづくり部会

開催日時 平成29年7月20日(木) 午後6時00分～8時00分

場 所 高津区役所5階第2会議室

参加者 区民会議委員10名

ア 避難所を知ろうのとりまとめについて

前回の部会で出た意見を反映させたものを提示して内容確認を行いながら、配布先についても検討した。

イ 共助に関する行政の取組紹介について

地域ケア推進担当の坂尾課長補佐から「たかつ「つながり」プロジェクト～自助・互助あふれる地域づくり～」について紹介してもらい、意見交換を実施した。

ウ 共助の具体的な取組内容について

調査審議テーマを決める際に各委員から寄せられた課題のうち、「共助による防災まちづくり」に関連する課題を紹介した後、具体的な取組内容について意見交換を実施した。

(2) 第6回防災まちづくり部会

開催日時 平成29年8月29日(火) 午後6時00分～7時15分

場所 高津区役所5階第3会議室

参加者 区民会議委員12名

ア 避難所を知ろうのとりまとめについて

前回の部会で出た意見を反映させたものを提示して最終確認を実施した。配布先については、町内会・自治会の回覧など、幅広く広報することを確認した。

イ 共助による防災まちづくりについて

他都市の好事例を参考にして、いくつかのキーワードを基に、高津区でも実現できそうな取組について意見交換を実施した。

キーワード① イベント

防災訓練を単独で実施しても人が集まらない傾向があるため、地域のお祭り、お花見、ウォークラリーといったイベントと抱き合わせで実施する。そうすることで、近所の方々と顔見知りになりやすい環境を提供する。

キーワード② 楽しく

毎回同じ内容ではマンネリ化してしまい、参加者が減少する傾向があるため、運動会での町会対抗バケツリレー、防災クイズ、スタンプラリー形式の体験訓練など、楽しみながら防災について学ぶことで、団結力の向上や参加者の向上が見込まれる。

キーワード③ 女性・若い世代

日中、地域にすることが多いのは女性(主婦層)であり、防災における女性ならではの目線は不可欠である。

若い世代の力は、即戦力にも長い目を見たときも大きな力になる。小学生に対しては紙芝居や的当て消火ゲームなどで意識の啓発、中学生に対しては消火器の扱い方などを指導することで、将来の防災リーダーの養成につながる。女性や若い世代が協力することで、地域力の底上げにもつながる。

キーワード④ 日常的

イベントは顔見知りになるきっかけになるが、大事なことは日常的に接することである。あいさつに始まり、日常生活のちょっとしたお手伝い、定期的な訪問など、日常的に接することで信頼関係が生まれる。

キーワード⑤ 自分事

災害を自分事として捉えることで、備蓄率の向上、防災訓練への参加、地域防災の担い手発掘など、地域の防災力の向上につながる。

方向性：

テーマ①避難所を知ろうについては、「避難所をもっとよく知ろう」の完成をもって、一旦終了とする。

テーマ②共助による防災まちづくりについては、他都市の好事例を参考に、共助の意識を高める取組の紹介・実践を行う。



区民会議としての取組：

テーマ①避難所を知ろうについては、「避難所をもっとよく知ろう」を町内会・自治会、公的施設に配架し、他にも区ホームページなどを通じて広報する。

テーマ②共助による防災まちづくりについては、共助の意識を高める具体的な取組事例を参考に、高津区内の自主防災組織がモデルケースとして実践し、その結果について検証する。

No.	取組地域	テーマ(目的)	取組概要
1	SYM三町会災害連合会(文京区)	3町会が協力し防災対応マニュアルを作成するなど災害時協力体制を確立する取組	○地域や商店街のイベントで防災コーナーを設けるなど、防災意識を啓発
2	谷中まちづくり協議会防災対策部会(台東区)	行政区の枠を超えて行う合同防災訓練をはじめとした防災活動	○「谷中まつり」で起震車を活用し防災意識を喚起
3	江東区亀戸町会連合会(江東区)	連合町会全体の防災マニュアルを作成するなど相互共助体制を確立する取組	○亀戸地区夏まつりにおいて煙発生体験等を実施
4	井の頭玉川町会(三鷹市)	独自の対応マニュアルを作成するなどきめ細やかな災害時要援護者支援の取組	○町会の祭りの際に防災啓発品を配布して普及啓発を実施
5	南町田自主防災組織(町田市)	黄色い旗を使用した安否確認などユニークな防災活動	○「いも煮会」において防災訓練を併催するなど、幅広い普及活動を実施
6	都営聖ヶ丘一丁目アパート自治会(多摩市)	毎日見守りパトロールを実施するなど徹底した災害時要援護者の把握	○イベント行事に、防災パンフレット配布や防災推進の講和を実施
7	大井滝王子町会滝王子婦人消火隊(品川区)	消防活動困難地域における婦人消火隊の継続的な防災活動	○通常の防火防災訓練だけでなく、地域の催し(サマーフェスティバル等)でも防火防災訓練を実施
8	萩山町地域懇談会(東村山市)	町会、PTAなど地域内の様々な主体が知恵を出し合い防災対策マニュアル作成などの取組	○町会、PTA、福祉協力員会など地域内の様々な主体が知恵を出し合い防災対策マニュアル作成 ○防災訓練の実施に際し、地域内小中学校PTAに呼びかけ参加を促進
9	南街・桜が丘地域防災協議会(東大和市)	マンション住民と地元住民とが共同で行う防災活動	○PTAと共同で訓練等を実施することで、若い世代の参加を促進
10	東京駅・有楽町駅周辺地区帰宅困難者対策地域協力会(千代田区)	帰宅困難者対策を中心とした東京駅周辺防災隣組の取組	○外国人向けの防災訓練、トリアージ訓練などを実施
11	神田淡路会(千代田区)	隣接6町会が連携して取り組む地域の防災活動	○夜間照明訓練や町会別バケツリレーなどの創意工夫を凝らした訓練
12	シーリアお台場5番街6号棟となり組(港区)	高層マンションにおける隣近所の助け合い活動	○地域コミュニティ醸成のため、昔遊び(紙芝居等)のイベントを実施
13	小山5丁目町会 五友會(品川区)	神輿の担い手を中心とした継続的な防火防災の取組	○月に1回、夜警に小学生が参加。将来の地域防災のリーダー、担い手を育成
14	戸越2丁目町会 区民消化隊・ミニポンプ隊(品川区)	周辺町会への応援出場も視野に入れた区民消化隊による防火防災活動	○町会員の子どものための会(二世会)の親睦活動で防災の担い手を育成
15	品川区防災協議会八潮地区協議会(FMやしお)(品川区)	ミニFMラジオ放送による災害時の情報交換	○地域イベント(八潮まつり、地域センターフェスティバル等)にも積極的に参加し、地域住民の防災意識の向上とコミュニティづくりに取り組む
16	荏原4丁目町会(品川区)	グループ体制による消化器や備蓄品等の普及活動	○「ふるさとまつり」にて、防災活動を知ってもらうためのブースを出展
17	新橋地区防災会(渋谷区)	「地域が守る」災害に強いまちづくりのための様々な取組	○地域の運動会では、備蓄品借り物競争や地域の防災クイズなど、楽しみながら防災意識を向上 ○各戸の軒先にバケツを配備し、初期消火力を強化
18	原レスキュー隊(荒川区)	「わが街は我等が守る！」をモットーとする災害発生時の救出・救助活動	○月1回、町会役員及び中学生と協働で町内のゴミ拾いを実施し、放火対策等に貢献
19	荒川中央町会レスキュー隊(荒川区)	木造住宅密集地域を住民たちの手で守る区民レスキュー隊	○毎年、敬老の日に町会が75歳以上の方への贈り物を1軒1軒贈呈する際に、レスキュー隊が同行し、災害時要援護者宅の状況を把握
20	光が丘地区連合協議会(練馬区)	大規模団地のまちで進める多種多様な防災活動	○近隣住民同士や災害時要援護者との関係づくりのため、全国介護者支援協議会と合同で団地内集会所に「光が丘きずなサロン」を開設 ○災害時の相互支援のため、他県地域の住民団体と交流事業を実施

No.	取組地域	テーマ(目的)	取組概要
21	大泉北泉町会(練馬区)	住民同士顔の見える関係を重視した災害に強いまちづくり	○年2回の地域の防災訓練では、地域の農家の野菜を配布したり、「こども縁日」を開催するなど、子どもや子育て世代など多くの人の参加を促進 ○中学生に対して軽可搬ポンプを使用した消化訓練を指導 ○区主催の軽可搬ポンプ操法大会に積極的に出場
22	鷲宿町会(足立区)	地域のつながりで命を守る	○看護師や重機の操縦など災害時に役に立つ有資格者のリストも作成、地図に示し、地域住民で協力して対応できる体制づくり
23	高尾台自治会防災会(八王子市)	個別支援プランに基づききめ細やかな災害時要援護者避難支援対策	○防災訓練と住民交流の2部構成の「防災の集い」を春秋年2回実施
24	大山自治会(立川市)	「人が人に優しいまちづくり」～人を“繋げる”大山団地の取組～	○避難所までの道程で防災に関するポイントを回る「ウォークラリー大会」など、住民が交流を深めながら、防災活動に自然に取組む仕組みづくり
25	上ノ原まちづくりの会(調布市)	NPO法人の防災訓練プログラムを取り入れた特色ある防災訓練「上ノ原かえっこ防災訓練」	○NPO法人等が考案した、子どもがおもちゃを交換する仕組みと防災訓練を組み合わせた防災訓練プログラム「イザ！カエルキャラバン！In東京」を訓練に導入し、若年層やその保護者の訓練参加を促進 ○なんでもバケツリレーや担架搬送タイムトライアルなど、ゲーム感覚で取り組める訓練を取り入れ、若年層が楽しみながら防災活動に触れられるよう工夫
26	高木町自治会防災部(国分寺市)	子どもから大人まで参加できる防災イベント「高木町防災ファミリーひろば」	○子どもから大人まで参加でき、家族ぐるみで地域住民と関われるイベントとして「防災ファミリーひろば」を30年以上前から実施 ○初期消火、けむり体験、炊き出し等の訓練や、小学生の吹奏楽演奏など、幅広い年齢層が参加できるイベント内容
27	本多連合町会防災委員会(国分寺市)	「本多防災ひろば」などイベントを通じて地域の輪を広げる取組	○地域の多くの関係団体の協力を得て、消化器操作体験、はしご車体験、AEDなどの訓練とともに、フリーマーケットや模擬店、産地直送販売、おはやしなども実施、来場者数300名以上
28	泉町三丁目地区連合自治防災会(国分寺市)	ゲーム感覚で楽しみながら参加できる「防災コンクール」	○昭和61年から防災コンクールを実施。防災・防火の課題を体験・解決してゴールするというゲーム感覚で防災に取り組めるもの ○こどもの防災意識高揚のため「親子防災映画・観劇会」を児童館と共催で開催
29	東恋ヶ窪六丁目自治会防災委員会(国分寺市)	まちづくり宣言の下、防災力の向上と住民が信頼の輪で結ばれる温かい地域を目指す取組	○毎年行う防災のつどい(防災訓練)は、初期消火や応急手当等の訓練、防災映画鑑賞会や消防用品の展示・注文受付など工夫をこらした内容
30	新町地区連合自治防災会(国分寺市)	地域のお祭りを活用した防災訓練で、若い世代との交流と防災スキルアップを実現	○小学校で毎年開催される、「春よこい」「こどもまつり」などの祭りに参加。コマまわしなどの遊びを教えるとともに、初期消火訓練や応急救護訓練を行い、若い世代との交流と防災スキルアップの両方を実現 ○中学校での防災避難訓練に参加、防災倉庫内見学や集団下校に同行
31	光町北部自治会(国分寺市)	神社を拠点にした防災訓練や子ども祭り、井戸端会議などで地域コミュニティを活性化	○近隣の神社を拠点として盆踊りや子ども祭り、防災訓練を実施、地域コミュニティの活性化を図る
32	芝浦小地区防災協議会(港区)	町会・自治会・事業所を一つにした地域防災ネットワーク	○地域の小学校と連携し、各学年に応じた防災教育(消火器の取扱訓練、バケツリレー訓練、防災工作、防災クイズ、炊き出し訓練等)を実施
33	四谷地区町会連合会(新宿区)	女性の視点による避難所運営検討や中学生による防災訓練等、幅広い取組を実施	○PTA、町会女性部らで「防災カフェ」を開催し、「女性の視点による避難所運営」について検討
34	若林町会(世田谷区)	防災部と各丁目ネットワークが連携した複合的な防災活動	○地域内の大学、企業等と災害時の協定を締結し、町会主催の「街かど防災教室」「同時多発災害対応型防災訓練」などに参加いただき、地域防災力の強化を図る

No.	取組地域	テーマ(目的)	取組概要
35	玉川町会(世田谷区)	二子玉川物知りマップやご近所広場で新旧住民が一体となったコミュニティを形成	○町内100メートル四方に一箇所を目処に「ご近所広場」を選定。ここを拠点に発災時に近隣同士で安否確認や要援護者の救出等を行う
36	常盤中学校避難所運営会議(葛飾区)	“助けられる人から助ける人へ！”～学校と地域が一体となった防災訓練～	○地域に根差した人材を育てることを目的に、地域の自治町会(金町常盤町会)が講師となり、ボート組立訓練やトイレ組立体験、救助訓練などの11のメニューを中学校で実施 ○生徒は、3年間で11のメニュー全てを経験、習得する仕組み
37	学園自治会自主防災会(武蔵村山市)	自治会から発信する地域への防災安全活動	○平成24年、商店会の空き店舗活用及び地域の安全見守りのため、「子ども・高齢者の安全見守り絆ハウス学園」を開設。見守り活動の拠点とする ○地元農園でのみかん狩りなど親子向けのイベントの中での防火安全教室
38	アサヒ商店街振興組合(台東区)	近隣町会と連携したサマーフェスティバルでの防災訓練	○昭和50年以来、毎年、商店街のサマーフェスティバルで防災訓練を実施。商店街の従業員や近隣町会が連携し、地域住民約300名が参加
39	自由が丘商店街振興組合(目黒区)	Wi-Fiを活用した、地域の来訪者への災害時情報提供体制の構築	○通信会社と協働で「自由が丘 光Wi-Fiシティー計画」を展開。無料のWi-Fiインターネット接続環境を整備し、平常時は商店街の情報を発信 ○毎年、自由が丘町会等の近隣町会で行われている複数の防災訓練に参加、組合員の初期消火や救出救助能力を向上
40	表町町会、富坂二丁目町会(文京区)	備蓄品・防災用具の「見える化」や「防災なんでも相談会」など住民主体で独自の取組を推進	○避難所の備蓄倉庫、町会の防災倉庫、2人暮らしの最適備蓄物資を一挙に小学校のグラウンドに広げて「見える化」を実施 ○町会独自の備蓄庫パンフレットを作成、配布 ○1,200世帯に実施した防災アンケート結果を基に、「防災なんでも相談会」を開催。アンケートでの質問事項などに答えるほか、個別相談も実施
41	大崎ウエストシティタワーズ自治会(品川区)	「地震災害用ハンドブック」の作成～高層マンション内の防災対策とコミュニティづくり～	○桜祭りや七夕など行事を多く実施し、住民コミュニティの構築に努める
42	久が原東自治会(大田区)	「高齢者・おてつだい隊」と防災マップで災害時要援護者を支援	○「高齢者・おてつだい隊」を発足し、日常生活の「チョットおてつだい」活動を通じて、防災活動の災害時要援護者支援の基礎づくり
43	糞谷地区自治会連合会(大田区)	自治会・町会の地域力を結集した「防災のまち糞谷」	○連合会主催の運動会では「防災バケツリレー」を実施
44	多摩川ハイム自治会(大田区)	「元気カフェ」や「歌声喫茶」で災害時要援護者と顔の見える関係づくり	○避難階段ごとの班で年1～2回「顔合わせの会」や「昼食会」を開催し、顔の見える関係を構築 ○居住者が有志で自身の職業から各分野の有識者として集まり、防災委員会を結成。住民への講習会講師などに協力 ○高齢者と顔の分かる関係を築くため、毎月1回「元気カフェ」を、隔月で「歌声喫茶」を開催
45	山王三・四丁目自治会(大田区)	実践的な防災体制の構築と「防災絵本」などの啓蒙活動	○オリジナルの防災絵本や音楽CDの作成、防災絵本の自治会劇団による上映など、子供など幅広い世代への啓蒙活動を実施
46	田柄町会(練馬区)	私設消火栓を活用して実施する町会合同防災訓練	○総合訓練では、起震車体験・初期消火・煙体験・応急救護訓練(AED)・幼児向け防災教育用カードゲーム・消防少年団による初期消火演習などを実施
47	東部地区連合町会(八王子市)	各町会の組織力を結集した大規模な防災訓練	○近年は近隣町会も訓練に参加し、共助の輪を拡大
48	りんりんの会(武蔵野市)	ご近所同士の安否確認～命を守る助け合いの取組～	○各戸に黄色い旗を配布し、災害時に無事の場合は玄関などに掲出し、掲出がない家庭には声掛けを行い、安否を確認する仕組みを構築 ○毎月1回の回覧板を通じて、防災知識や安否確認のルールなどを周知

No.	取組地域	テーマ(目的)	取組概要
49	銀行町親和会(狛江市)	継続的な防災訓練や地域の資源を活用した、住民同士の強い結びつきを目指した関係づくり	○町会員の敷地を避難場所として指定したり、井戸の所有者や地元企業との災害時の協力連携を調整するなど、地域の資源を活用
50	荒屋敷自治会(西東京市)	まちぐるみで長年にわたり防災活動を継続	○「荒屋敷こどもまつり」を30年以上毎年実施。その中で、初期消火訓練(消化器的当てゲーム)や起震車体験などを行い、若い力を育成
51	麻布小地区防災協議会(港区)	地元小学校と「親子で参加防災訓練」	○小学校の子供引渡し訓練に合わせて、「親子で参加防災訓練」を12年前から実施。応急救護などのほか、救助犬のデモンストレーションも実施
52	東親会(品川区)	大規模町会における地域防災連携	○「東親会夏まつり」などの地域イベントで、NPOや地域の社会福祉協議会、事業所と協力し、幅広く防災普及啓発活動を実施 ○青少年部がFacebookを活用し、若い世代への訓練参加を促進
53	立川市自治会連合会(立川市)	『絆』カードによる災害に強い地域づくりの取組	○地域のつながりを強化し、「災害に強い安全・安心な地域づくり」を目的として、『絆』カードを発行し、自治連加盟自治会の会員各世帯に配布 ○カードには、自助・共助の説明や、災害時の緊急連絡先などを掲載 ○市内企業・商店と連携し、カードの提示で「優待サービス」が受けられる仕組みを設け、会員が常日頃から所持する工夫により防災啓発を図る
54	南町防災ネットワーク(武蔵野市)	「ティーパーティ」から始まった防災コミュニティづくり	○福祉の会、青少年問題協議会、コミュニティ協議会が地域の防災について話し合う「南町防災ティーパーティ」を開催、防災活動を本格的に開始 ○ナイトウォークやウォーキング団体と連携したタウンウォッチなど、工夫を凝らしたまち歩きを実施 ○防災バーベキューなどの楽しみながら学べるイベントも開催
55	根津弥生七ヶ町連合会(文京区)	町会連合会で連携した地域防災力向上への取組	○区や学校関係者等と連携した避難所運営訓練や、事前に訓練想定を知らせないブラインド型訓練、スタンドパイプ取扱訓練などを実施 ○全町会と区域内の有料老人ホームとの間で、火災発生時における一時避難場所の提供、災害発生時における入所者の避難誘導等についての災害応援協定を締結
56	二葉三丁目町会(品川区)	木造住宅密集地域での「災害時要援護者」に対する支援及び安否確認体制の構築	○地域内の災害時要援護者を毎月1回、個別訪問し、要援護者と支援者のつながりを形成 ○要援護者ごとに情報を掲載した「安心助け合いカード」を作成。1名の要援護者に対し3名の安否確認担当者を選定 ○火災発生箇所を事前周知しない「抜き打ち型」の初期消火訓練を実施 ○「防災標語のコンテスト」を小学生と共同開催し、独自の手段で若い世代へのアプローチを図る
57	安方南町会(大田区)	災害時 避難の手助けをする運動	○地元商店街や消防団、消防少年団と連携し、幅広い世代で合同夜警等を実施
58	高円寺北二丁目町会防災会(杉並区)	木密地域での初期消火、救出、救助等基礎訓練	○子供たちへの防災意識高揚のため、児童館で親子でバケツリレーや消化器操作体験、防災クイズなどを実施
59	大山東町会(板橋区)	「目指せ、世話焼き日本一！一人ぼっちにやさせないぞ」町会独自の見守り活動	○町会員との交流お茶会を定期的で開催し、生活上の不安や防災対策などを気軽に話し合い、絆を深める ○地域の中学生による車椅子乗車体験や仮設トイレの組立て訓練等を実施
60	光が丘都営第三アパート自治会(練馬区)	「向こう三軒両隣」住民がお互いに助け合う活動	○障害者や高齢者の一人暮らしを対象に、「見守り隊」による見守りを実施。各人の要望に応じた見守り方法で対応 ○ライフライン停止を想定した夜間防災訓練を実施し、照明の設置やサバイバル飯の調理・試食などを体験

No.	取組地域	テーマ(目的)	取組概要
61	堀切地区まちづくり懇談会(葛飾区)	堀切地区8町会合同の防災会議や防災訓練	○初期消火・応急救護などの防災訓練を角逐で実施するほか、「堀切地区リーダー講習会」を年に1回実施
62	ミディオンクラブ(葛飾区)	大規模集合住宅における実践的な総合防災訓練	○住民をコントローラーとプレイヤーに分け、状況付与に基づき災害対策本部を運営するなど、実践的な内容で防災訓練を実施
63	なぎさ防災会(江戸川区)	進化を続ける地域防災活動	○毎年9月に一般住民向け総合防災訓練を実施するほか、冬期訓練、春期訓練、夏期訓練を実施。夏期訓練では「子ども防災教室」も開催
64	成瀬中央自治会(町田市)	先進的な取組による安全・安心なまちづくり	○訓練では、防災をテーマにした寸劇やスタンプラリー、キッズバッジ配布などで、子供や親世代の参加を促す ○ペット同行避難訓練を実施し、飼い主のマナー・意識の向上を図る
65	大和田自治会自主防災会(日野市)	自主防災組織運営知識の伝承を重視した防災活動への取組	○前年度の班長が会に残り、新たな班長をサポートするほか、役員等経験者で「愛好会」を作り、後進を指導
66	滝山住宅管理組合自主防災組織(東久留米市)	32棟の集合住宅による地域防災力向上を目指した積極的な取組	○夕方から夜間に実施する夜間照明防災訓練や、避難所体験訓練、防災ウォーキング大会、減災セミナーなど年間を通じて活動を展開
67	保谷マンション防災市民組織(西東京市)	高齢者世帯の多いマンション内で行う防災訓練・要支援者対策	○住民同士の交流を活性化するため、年2回「顔合わせ会」を開催。皆で避難経路を確認後、お花見で親睦
68	日の出団地自治会(日の出町)	日の出団地3自治会連携による「非常時における防災力強化」の取組	○春・秋の清掃活動や納涼祭などを合同で実施し、一体感を醸成
69	泉南中学校震災救援所運営連絡会(杉並区)	次世代を担う中高生の育成を目的とする発災対応型防災訓練の取組	○発災時に救援所を立ち上げ・管理・運営を迅速かつ円滑に行うため、救援所訓練を継続して実施。避難者受入れのほか、簡易トイレや発電機の設置等を訓練。地元の中学生も参加
70	志茂町会自治会連合会(北区)	木造住宅密集地域での発災対応及び学校等と連携した防災教育活動	○地元小学校の「防災学校」では、連合会が準備会合や訓練当日に参加し、学校と連携した防災教育を実施
71	諏訪台中学校避難所運営委員会(荒川区)	大震災時における安否確認や避難所運営の迅速・円滑な取組	○訓練には中学生も参加し、安否確認や救出救護、仮設トイレの組立て、炊き出しなどを体験 ○26年度は、体育館の暗幕を使い、発災時の停電を想定した訓練を実施
72	青井三丁目町会(足立区)	次世代の地域の担い手に～10年以上続く命をつなぐ救命講習～	○防災区民組織を基盤として結成された区民レスキュー隊を中心に、平成15年から地域の中学校で生徒を対象に普通救命講習を実施。受講人数は580名に上る ○講習を終えた中学生が地域の避難所運営訓練に参加するなど、地域ぐるみで顔が見える関係を構築
73	北落合地区災害対策連絡協議会(多摩市)	地域コミュニティの力を土台にした地域全体の防災力強化	○「地域運動会」でバケツリレーを協議に取り入れたり、「どんど焼き」で炊き出し訓練を行うなど、各行事で防災意識の高揚を図る
74	中延一丁目町会(品川区)	大きな訓練と小さな訓練の両輪で行う防災訓練	○防災訓練に加え、親子で楽しめる餅つき大会などのイベントを盛り込んだ「出初式」を実施 ○「中一見守り隊」を結成、対象者1人につき3～4人が見守る体制を整備し、要支援者と支援者との情報共有化を目的に見守りカードを作成
75	久が原南自治会(大田区)	皆で避難！自助・共助で支える地域力	○消火器マップ作成、無線機の導入で情報連絡網の構築、防災パトロールの実施、自治会主催の子供祭りでの防災クイズ実施など防災普及活動の実施
76	東京都住宅供給公社興野町住宅自治会災害対策部(足立区)	オール興野町住宅で災害に備える！～有志で立ち上げた災害対策部～	○災害時に各棟の状況を本部に連絡する「世話人」制度を設立。日頃からの声掛けにより、棟ごとに住人の顔が見える関係づくりを実施 ○避難場所まで歩く「防災ピクニック」、災害時に役立つものに焦点を置き町中を歩く「防災まち歩き探検ゲーム」などの訓練、トランシーバーの使い方講習会などを実施、普及啓発用「ニュース防災」の発行

No.	取組地域	テーマ(目的)	取組概要
77	東野会(三鷹市)	ミニ防災訓練の充実と地域の絆づくりへの取組	○災害時在宅生活支援施設である児童公園で、親睦を深めるためのバーベキュー大会と仮設トイレの組立などを取り入れた防災訓練を実施し、防災面における地域の共助の力を高めるための取組みを強化
78	堀留公園町ぐるみ総合防災訓練実行委員会(中央区)	町会と事業所が一体となった町ぐるみの総合防災訓練	○参加者に防災用品を配布し、防災意識の向上を図る。平成18年度に繊維関連の地域特性を生かして、応急手当の手順を染めこんだ手ぬぐいを配布
79	平塚二丁目町会(品川区)	消防署共催で行うスタンプラリー式体験型防火防災訓練	○防災訓練をメインとした「防火防災チャレンジパーク」を消防署と共催。スタンプラリー方式で煙体験など体験型訓練、ミニ消防車乗車などを実施
80	地域福祉おたすけ隊(練馬区)	一人暮らし高齢者が参加できる地域の防災コミュニティー活動	○一人暮らしの高齢者等が参加できる地域の防災コミュニティーとして、家具転倒防止器具の取り付けなどを無償で実施 ○「大江戸線シリーズ」という体力作り、災害時に役立つ顔の見える関係作りを目的とした歩き会を年5回程実施
81	八王子市青少年対策上柚木地区委員会(八王子市)	女性の視点を重視した学校・PTA・地域が連携した防災活動	○備蓄など具体的な備えを記載した「各家庭での災害対策事前チェックシート」、発災後の具体的な行動を記載した「発災後の避難フロー」を配布
82	桜ヶ丘連合会(多摩市)	地域のコミュニティセンターと連携した防災力向上への取組	○「ゆう桜ヶ丘夏まつり」などの行事を通して地域の絆と連携の強化
83	細田ふれあい祭り絆実行委員会(葛飾区)	細田ふれあい祭り-絆-	○祭りでは、ゲーム形式の初期消火訓練やバケツリレーなど体験型訓練を実施 ○子供向けに防災クイズの実施やミニSL乗車体験、露店などを実施し、幅広い年齢層の参加を促進
84	南陽台自治会防災隊(八王子市)	防災行動力の向上と安全で安心できる防災まちづくりへの取組	○毎年変わる防災隊役員に加え、永続的に活動する防災隊専従班を組織することで、ノウハウを継承 ○小学生対象のミニキャンプでテント泊、防災講和などを実施
85	井の頭一丁目町会(三鷹市)	“防災で地域をつなぐ”楽しい！防災イベント&誰でも気軽に防災お茶会	○楽しみを取り入れた防災訓練や、その他の町会行事も防災と組み合わせで実施。また、イベントスタッフとして中学生や大学生が活躍し、多世代の参加により防災で地域をつなぐ ○町会の班単位で防災お茶会を開催。防災出前講座、町会による取組の紹介、参加者の防災の情報交換などを実施し、隣近所のつながり強化 ○定期的にまち歩きを実施し、防災資源の位置などを確認、町会内で情報を共有。また、防災倉庫側面は「こども美術館」として住民へ周知に工夫も
86	中台地区防災ガイドブック(板橋区)	みんなで創ろう安心安全な町・中台	○『わが組織の「被災・対応シナリオ」をつくろう』ということで、災害による被害がいつまでどのような形で続くのか、それへの対応を誰がどのように行えばよいのか、時間の流れに沿って考える
87	つつじが丘北自治会・昭島つつじが丘ハイツ北住宅団地管理組合(昭島市)	災害時“死者ゼロ”を目指す！マンション管理組合と自治会との取組	○地域内の自治会、管理組合の防災・減災に対する役割を明確化 ○号棟別に防災隣組組織を立上げて、各号棟1階に防災倉庫の設置 ○防災マニュアルや広報誌、コミュニティづくりのためのネームプレートを作成し、全住民に配布 ⇒互近所ネットワーク活動により、あいさつ運動が盛んになった 防災倉庫の鍵を誰でも開けられる仕組みにしたことで、住民全員で災害対応する認識が芽生えた 継続的な広報により、防災に対する取組を理解してもらい、防災訓練等の参加者増につながった

No.	取組地域	テーマ(目的)	取組概要
88	わしん倶楽部(仙台市)	「楽しく学ぶ 防災・減災教室」- ゲーミング・シミュレーションによる 防災教育-	○既存のゲームを体験した後、一歩前進の提案をすることで、自分事として楽しみ学んでもらえるよう工夫 ⇒子供たちが、家族や地域の方とともに、防災・減災ゲームの体験や問題作りを行うことにより、コミュニケーションのきっかけとなって顔の見える関係づくりができた
89	中央ゆめづくり協議会 防災防犯部会(三重県 名張市)	地域住民に向けた防災啓発活動	○かまどベンチの設置、100円防災、防災本の紹介、夏祭りにおいて消火器型の水鉄砲を使った消化訓練、「食」というアプローチから防災について考える『サバイバルクッキングゲーム』の実施 ⇒新しい(耐震性が高い)住宅が多いため、在宅避難を中心としたメニューを実施することにより、自分事として自助・共助の重要性や防災対策の必要性を実感してもらう
90	子安通三丁目自治会 (神奈川区)	防災イベントの開催および若い人が参加しやすい組織作り	○毎年「防災フェア」を開催し、子どもたちを含め600人が参加し、楽しみながら防災について学ぶ(スタンプラリー、防災紙芝居、子ども防災学習コーナー、炊き出しや災害食コーナー、ホットタオル体験、がれきの上を歩行する体験コーナーなど) また、若い人が気軽に参加できる役割を用意して、多くの人を巻き込む。気軽な役割から始め、時間を掛けて、責任ある役割をお願いするなど、きめ細かな配慮を実施(子どもの前で、お父さんお母さんがカッコ良く見える役割を用意など)
91	箕輪町災害対策連絡会 (港北区)	地域防災拠点での宿泊訓練および一斉清掃後の防災訓練	○地域防災拠点の訓練の後、実際に宿泊してもらい、避難生活を仮想体験してもらう訓練を実施 ・電気や水が出ないなど、実際に近い状況で訓練を行う ・暑さ寒さ、夜の騒音、プライバシー問題、避難生活で何が必要になるか…などを実感してもらう ・地域防災拠点の運営委員も被災者であることを伝え、参加者にただ宿泊するだけでなく、避難所運営を手伝ってもらう旨をアピールする ○地域の一斉清掃など、人が集まる機会を利用して、訓練や啓発を実施
92	くぬぎ台団地自治会(保土ヶ谷区)	夜間訓練および一品一食運動	○基本を押さえつつ、マンネリ化しない訓練を実施 ・昼間実施している訓練を、全く同様に夜間に実施する ○備蓄倉庫の物資には限りがあるため、訓練時に一人ひとりが物資や食料を持ち寄って互いに分け合う習慣を身に付ける
93	三井杉田台自治会(磯子区)	不意打ち訓練および「防災カルタ」の作成と一斉訪問	○毎年1回行っている安否確認訓練の際に、トランシーバーを通じて予告なしの指示を出し、どちらを優先するかは各自が判断して行動する ○毎年1回行っている安否確認訓練の際に、近隣の親交の薄い家を訪問し、防災カルタを交換して顔の見える関係づくりを実施 ・あらかじめ防災カルタを各家庭に5枚ずつ配布(カルタには防災豆知識が記載) ・訓練では、全員が5軒訪問して安否確認を行う ・訪問の際に防災カルタをお互いに見せ合い、交換する
94	羽沢西部自治会(西区)	炊き出し訓練を兼ねた餅つき大会	○地域のイベント(餅つき大会、サンマを焼く会など)を活用して、訓練・啓発を実施することにより、顔の見える関係づくりにつなげる
95	六ッ川地区連合自治会 (南区)	防災ウォークラリー	○数名でグループを作り、コマ地図だけを頼りに、チェックポイントを回りながら、防災に関するクイズに挑戦。楽しみながらまち歩きをし、車イスが通れない道の確認など、自分のまちの特徴などを無意識のうちに確認する

No.	取組地域	テーマ(目的)	取組概要
96	一本松まちづくり協議会(西区)	町内減災オリエンテーリングおよび「防災カステップアップキャンプ」の開催	<p>○全戸配布した防災マップを使い、実際に各自が設定した避難路や地域で設置した消火箱、雨水タンク、井戸等の防災施設を見て歩くことで、住民に地域の状況を知ってもらい、災害時の避難ルートを複数例確認してもらうよう周知している</p> <p>○身近な場所でキャンプを体験することで、災害時に役立つ知恵や工夫を楽しみながら身に付けてもらうとともに、防災に関心をもってもらうことを狙いとする</p>
97	片倉町大丸町内会(神奈川区)	「おとなり場」グループを活用した助け合いの関係づくり	<p>○「おとなり場」は、道に囲まれたブロックではなく、通りを挟んだ15~20軒の向かい同士・お隣同士でグループを作ることで、日常的に顔の見える関係で安否確認や助け合いをする。また、定期的に学習会も開催</p>
98	江ヶ崎町内会(鶴見区)	中学生が多数参加する防災訓練	<p>○中学校の生徒らが要援護者を車いすに乗せて、避難場所まで送る訓練を実施。また、小学生もバケツリレーに参加。子どもたちに責任ある立場を与えることで、自分の出番としての意識を持たせる</p>
99	ヨコハマタワーリングスクエア自治会(西区)	マンション内の同好会との協力関係	<p>○若い年齢層が多く所属する同好会とうまく関係を築き、防災の担い手を増やす仕組みを構築</p>
100	阿久和北部連合自治会(瀬谷区)	団塊の世代を取り込む「おやじの広場」	<p>○きっかけは地域の男性たちに「ついのすみかとなるであろうこの地域のことを、ビール片手に話し合ってみませんか」と呼びかけ、月1回の「おやじの広場」が開始</p>
101	グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会(戸塚区)	災害時のマンション内ルールと本部機能の明確化およびマンションと周辺地域の関係づくり	<p>○災害時に集まることのできる防災委員は限られているため、防災対策本部ができることを明確にして、それ以外は住民個人が実施する内容とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本部は、安否確認と情報提供の場とする ・水や食料、生活用品は居住者自身が確保する(自治会は、備蓄は一切行わない)など <p>○マンションだけでなく、地元参加型で「グランフォーレ桜祭り」を毎年開催し、地元中学のブラスバンド部の演奏など、楽しいイベントを通じてコミュニティを形成</p>
102	安心安全情報連絡協議会(田園都市線沿線地域の川崎市、横浜市の一部)	多摩田園都市の地域防災力向上	<p>○①専門家グループがリードする防災まちづくり活動の展開、②防災情報・技術の普及・啓発、③専門家ネットワークによる技術支援、④防災情報の共有・発信を行っている</p> <p>○具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティFMを活用した防災情報の発信 ・サロンド防災中川(防災知識を得て、まちづくりに参加できるスペース)の設置、運営 ・シンポジウムの開催 等
103	防災まちづくりの会(東久留米市)	市民自身による「防災まちづくり学校」の開講	<p>○市民大学「災害に強いまちづくり」受講生有志により、東久留米市を災害に強いまちにするために「防災まちづくり学校」を開講した</p> <p>○①防災まちづくり学校、②市民自主企画講座、③出前講座、④自主防災瓦版の発行 等多岐に渡った活動をしている</p> <p>○経費節減のため、市役所関係職員と会員自身が講師を務める</p>
104	応急手当普及推進の町(愛川町)	「応急手当普及推進の町」を全国で初めて宣言し、応急手当の普及を一大町民運動とした活動を展開	<p>○「私も我が家の救急隊員」をキャッチフレーズに応急手当普及を展開している</p> <p>○平成28年4月1日現在、救命講習会開催840回、修了者数18,336人、人口比約44.5%となっている。</p> <p>○呼吸や心臓の停止した患者の救命のチャンスは時間の経過とともに低下し、4分までは50パーセント、5分までは25パーセントと言われている。1世帯に1人の心肺蘇生法が出来る人のいる町を目指す</p>

No.	取組地域	テーマ(目的)	取組概要
105	玉川田園調布会(世田谷区)	要援護者マップの作成と中学生ボランティアによる救出訓練	<p>○平素、町会などの家にどんな要援護者が住んでいるかを把握し、地図上に建物外観ズとともに記入したマップを作成した</p> <p>○防災訓練のたびに地元中学生ボランティアを募り、マップを頼りに要援護者を探し出して、ボランティアの車で訓練場まで搬送する救出訓練を実施している</p>
106	早稲田商店会(新宿区)	商店会、大学、地域との連携	<p>○「自分たちのまちは自分たちで守り」の基本の下、「楽しめる防災」というユニークな発想で、東京都新宿区早稲田商店会に集う、在勤、在学の人々と共に防災意識向上、持続のための活動を展開している</p> <p>①メーリングリストの活用による広範囲の人的ネットワークの構築</p> <p>②まちを歩きツアーにより危険箇所の気づき、災害時利用可能資源のチェックを行い、“わが町防災マップ”を作成</p> <p>③高齢者世帯の空き部屋に大学生を下宿。日ごろの世代間交流から災害時の弱者支援につなげる</p>
107	藤沢市鶴沼中学校地区防災連絡協議会(藤沢市)	シナリオ作成型避難所運営ワークショップの実施とラジオドラマの作成	<p>○防災科学技術研究所(NIED)と鶴沼中学校区防災連絡協議会が協力し、「シナリオ作成型避難所運営ワークショップ」を実施、その記録を地元のNPO法人藤沢災害救援ボランティアネットワーク(FSV)が整理し、関係者や藤沢市防災担当部局が事実関係の確認を行った</p> <p>○これらの基礎資料をもとに、ラジオドラマの脚本が制作され、高校生や協議会メンバーが参加し、地元のコミュニティFM局で「地域発・防災ラジオドラマin藤沢鶴沼中学校地区防災連絡協議会<地震編>として放送した</p> <p>○シナリオ化することでより具体的に災害をイメージすることが可能となり、ロールプレイングをすることで役割分担等が明確になる</p>
108	川北自主防災組織(熊本県)	避難訓練と運動会の同時開催	<p>○地元の大きな催しである地区運動会を、公的避難所である小学校で開催。避難訓練と組み合わせて運動会を開催することで、避難訓練への参加者を増やすとともに、楽しみながら避難ルートの認知、防災技術の向上等に結びつける</p> <p>①運動会会場となる小学校への避難訓練⇒危険箇所の確認、役員の誘導訓練、要支援者の誘導等を実施</p> <p>②競技種目への避難訓練の導入⇒地元消防署の協力の下、競技種目の一つとして簡易担架搬送競技を実施。普段避難訓練への参加が少ない、女性や子どもによる防災技術の向上に努める</p>

【参考資料】

- 東京防災隣組第一回認定団体活動事例集(No. 1~10)
- 東京防災隣組第二回認定団体活動事例集(No. 11~39)
- 東京防災隣組第三回認定団体活動事例集(No. 40~54)
- 東京防災隣組第四回認定団体活動事例集(No. 55~73)
- 東京防災隣組第五回認定団体活動事例集(No. 74~82)
- 東京防災隣組第六回認定団体活動事例集(No. 83~85)
- 中台地区防災ガイドブック 自助~共助への取り組み(No. 86)
- 第21回防災まちづくり大賞受賞事例集(No. 87~89)
- ヨコハマの「減災」アイデア集 町の防災組織活動事例集(No. 90~101)
- 内閣府防災まちづくりポータルサイト(No. 102~105)
- 自主防災組織づくりとその活動 自主防災組織指導者用教本(No. 106)
- 災害リスク情報を活用した地域防災活動の実践事例集2009(No. 107)
- 熊本県自主防災活動事例集(平常時編)(No. 108)



発行日：2017（平成29）年10月

発行：第6期高津区区民会議（事務局：高津区役所企画課）

Tel:044-861-3131 Fax:044-861-3103

E-mail：67kikaku@city.kawasaki.jp

第2取組テーマの調査・審議、そしてアクション！

2つの部会とも、第2取組テーマについて調査・審議を進めています。また、「オープンエアーメーカー」養成講習の受講など、具体的なアクションにも取り組んでいます。今号では、その内容を紹介します。

防災まちづくり部会



■第1取組テーマ「避難所を知ろう」報告書完成！

第1取組テーマ「避難所を知ろう」の報告書『避難所をもっとよく知ろう 安全に避難するために』がまとまりました。前号でお知らせした避難所の実態に加え、いざという時のための「安全に避難するための避難フロー」を掲載。避難所が提供できる内容の限界を踏まえ、“**自宅の安全が確認された場合には在宅で避難する**”こと、そのためには“**自力で1週間は過ごせる準備をする**”ことを提案しています。また、“**自助・共助・公助の連携**”の重要性を呼びかけています。

この報告書は、区民会議のホームページからダウンロードが可能です。

安全に避難するための避難フロー（避難所や状況に関するアンケート結果を併せて表示）

避難所は、このほか「一棟貸し借」や「民営施設」が活用されることがある。また、避難所が提供する物資やサービスは、避難所によって異なる。避難所が提供する物資やサービスは、避難所によって異なる。

避難所：避難所は、災害発生時に避難するための場所である。避難所は、災害発生時に避難するための場所である。避難所は、災害発生時に避難するための場所である。

自宅へ帰る：自宅へ帰ることは、避難所よりも安全である。自宅へ帰ることは、避難所よりも安全である。自宅へ帰ることは、避難所よりも安全である。

自助・共助・公助の連携：自助・共助・公助の連携は、避難所よりも安全である。自助・共助・公助の連携は、避難所よりも安全である。自助・共助・公助の連携は、避難所よりも安全である。

■第2取組テーマ「共助による防災まちづくり」事例収集

第2取組テーマを「コミュニティの強化による防災のまちづくり」から、より防災に寄った「共助による防災まちづくり」とし、現在調査・審議を進めています。

まず、共助を構築するために参考となる事例を収集しました。今後は、収集した事例を参考に、高津区内の自主防災組織がモデルケースとして実践し、「共助による防災まちづくり」について検討する予定です。

参考事例を整理する中で、「共助」の構築に向けた取組のキーワードとして、以下の5つを整理しました。

- キーワード① **イベント**：地域のお祭り、お花見などのイベントと連携して防災訓練を開催することで、多くの人が参加し、近隣同士が顔見知りとなる環境を提供します。
- キーワード② **楽しく**：運動会の町会対抗バケツリレー、防災クイズなど、楽しみながら防災について学ぶことで、団結力や参加者の防災力の向上が見込まれます。
- キーワード③ **女性・若い世代**：防災における女性ならではの視点は不可欠であるとともに、女性や若い世代が協力することにより、地域力の底上げにもつながります。
- キーワード④ **日常的**：イベントは顔見知りになるきっかけにはなりますが、重要なのは日常的に接することです。日常生活のお手伝いや定期的な訪問などにより、信頼関係が生まれます。
- キーワード⑤ **自分事**：災害を自分事として捉えることで、備蓄率の向上、防災訓練への参加者の増加、担い手の発掘など、地域の防災力の向上に繋がります。

生き活きまちづくり部会



第2取組テーマである「障害者に対する差別解消と理解促進」の浸透状況や課題を把握するために、障害者が通う事業所職員と障害者本人に対するアンケートとヒアリングを実施しました。また、区民会議委員が「オープンエアメーカー」養成講習を受講しました。

■「障害者に対する差別解消と理解促進アンケート」の実施

区内事業所 16 か所から回答を得ました。主な意見や分かったことは以下の通りです。

- 「障害者差別解消法」の浸透状況について
「住民は知らない。理解していない」「浸透しているとは言えない」「啓発活動が行き届いていない」という意見が多数見られました。一方で、「理解が進んでいる」という前向きな評価もうかがわれました。
- 「不当な差別的取り扱いの禁止」について
まち中の施設やサービスを利用する際、差別を受けた経験のある人がいることが分かりました。とくに車椅子利用者が、道路の段差・傾斜・狭窄に不自由を感じていることが明らかになりました。
- 「合理的配慮の提供」について
合理的配慮の提供を受けた障害者は多く、意思表示をすれば周りは支援をしてくれることが明らかになりました。一方で、声を掛けられた時に「大丈夫です」と遠慮してしまう方がいることも分かりました。
- 「地域社会の催しや行事」「ふくシティたかつ」について
地域のイベントに参加したいと考えている人が多数いることが分かりましたが、障害の内容によっては消極的な意見も見られました。「ふくシティたかつ」については、広報・周知に力を入れて欲しいという意見がありました。

■「事業所ヒアリング」の実施

アンケートに回答をいただいた中から、川崎市北部身体障害者福祉会館作業室、川崎市わくす高津、ピアジョブサポート溝の口を訪問し、職員と障害者本人にお話を伺いました。

障害のある方の就職をサポートしているの、地元商店のお手伝いをさせてもらえると嬉しいなどの意見がありました。



■「オープンエアメーカー」の受講

高津総合型スポーツクラブ SELF の戸沼智貴氏を講師に招き、市が取り組んでいる「オープンエアメーカー」（＝自分も周りも「快適」な活動環境をつくったり、「快適」な状態に導くことができる人）について講習を受けました。具体的な事例を交えながらのお話をいただき、障害の問題に対する理解が深まりました。



■調査報告書の作成

これまでの活動経過および提案を記した活動記録として、「調査報告書」を作成しました。また、区民向けの広報パンフレットを別途作成予定です。



区民会議はどなたでも傍聴可能です。会議の開催日程は、市ホームページでお知らせしていますので、関心のある方はぜひ、お越しください。また、調査審議中のテーマに関する御意見等がありましたら、高津区役所企画課までご連絡ください。

【お問い合わせ先】高津区役所 企画課 TEL 044(861)3131/FAX 044(861)3103

ホームページはこちら……

高津区区民会議

検索

	2016年度(平成28年度)									2017年度(平成29年度)												2018年度(平成30年度)			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
全体会議	7/25 第1回				11/25 第2回				3/14 第3回			6/13 第4回			9/27 第5回			第6回			第7回				
三役会			9/23 第1回	10/13 第2回	11/22 第3回		1/25 第4回		3/1 第5回		4/18 第6回	6/5 第7回	7/11 第8回	8/23 第9回	9/21 第10回	10/17 第11回	11/1 第12回	第13回	第14・15回	第16回					
生き生きまちづくり部会	7/1 第6期高津区 区民会議任期開始	8/30 課題検討会		10/6 第1回	11/8 第2回	12/13 第3回	1/28 こども会議の見学	2/21 東橋中学校生徒へのヒアリング	3/11 J・H・S・コミュニケーション高津の見学	中間報告書の作成・発行		5/2 第5回	6/29 第6回	7/18 7/21 障害者施設へのヒアリング(3箇所)		9/12 第7回	10/26 第8回 11/16 第9回		第10・11回						6/30 第6期高津区 区民会議任期終了
防災まちづくり部会				10/13 第1回	11/1 第2回	12/20 (避難所運営ゲームの実施)		2/14 第3回	3/18 たかつあん☆あんフェスタ		4/24 第4回		7/20 第5回 8/29 第6回			10/5 第7回 11/10 第8回		第9・10回		たかつあん☆あんフェスタ					

○部会名の決定
○部会長の決定
○調査審議テーマの決定
「繋がる」「結ぶ」「交流する」をキーワードとする地域活性化を目指し、それに向けて、①子どもの地域参加、②障害者に対する差別解消と理解促進、③高齢者の生きがいづくりの3つに分けて取り組み、この順番で調査審議を進めることとした。

○部会名の決定
○部会長の決定
○調査審議テーマの決定
前半は「避難所を知ろう」に取り組み、避難所の現状に関する効果的な周知、区民一人一人の意識付けについて検討し、後半はコミュニティ強化による防災まちづくりに取り組み、マンション防災、マンションと町会などの関係づくり、効果的な情報共有、高齢者・障害者の避難サポートなどについて検討する。